令和５年度 第１回市政モニターアンケート

「世界遺産富士山」の集計結果からの考察

問１

気持ちの面で変化を感じている人は半数。

登録をきっかけに、市として世界文化遺産「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」としての価値を周知する取り組みを行ってきたことが反映された結果と推察する。

しかし、半数が変わらないと答えていることもあり、古代から現在にかけて、人々がどのような心持ちで富士山を「神の山・仏の山」として崇めてきたのか更に知らせることで、市民の皆様の気持の面での変化に訴えかけていきたい。

問２・２－１

世界遺産のまちづくりを進めてきた富士宮市について、変化を感じた人が半分以上である。

回答者 45 人のうち、大きく変わった、変わったと回答した人は 27 人であり、半分以上が変化を感じていることが分かった。

変化を感じた場所について、「世界遺産センターの建設」が最も多く、次いで「浅間大社・神田川周辺の環境整備」「白糸の滝周辺の環境整備」の回答が多い。

やはり目に見える部分での変化を実感する人が多いことが分かる。整備することにより人が集まることにつながり、構成資産への理解や、世界遺産富士山のまちという認識にもつながると考えるため、引き続き中心市街地、白糸ノ滝をはじめ構成資産の環境整備を推進したい。

一方、観光客の増加やまちなかのにぎわいに変化を感じていると回答した人は少数であるとの結果は、静岡県富士山世界遺産センターのオープンにより中心市街地への観光客が増加したとの統計との乖離が見られる。これは、静岡県富士山世界遺産センターを目的に来訪した人の流れがセンター内にとどまり、富士山本宮浅間大社や中心市街地への流れが十分でないことが要因ではないかと思われる。現在推進している、世界遺産のまちづくり整備、とりわけ参道軸整備を更に進め中心市街地への人の流れの創出に努めていきたい。

問３

まちづくりについて市が取り組むべきこととして、公共交通や駐車場の整備が多い。

自由記述の中で、多くの意見が出ていたのが「交通の便が悪い」「まちなかの駐車場完備」でした。富士急静岡バスの運行する強力くんの利用促進をはじめとした構成資産を回りやすくするための取り組みや、駐車場については、平成 28 年度に整備した神田川観光駐車場の利用促進や静岡ガスエコノミーシェアリングの活用促進などの周知も必要であると考える。

なお、ほかにも、電線の地中化や、道路標識の整備など、ハード面での意見が多く挙げられていた。意見として受け止め、今後予定している「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」の改訂の際にも検討していきたい。

また、子供への学習機会の増加や、ターゲットを絞った新たな施策の展開など、ソフト面での提案も挙げられていた。令和２年から継続している小中学生用構成資産学習冊子の配布や出前講座での活用、コロナを機に実施方法を見直した市民対象の構成資産めぐりなど、様々な機会を通じて世界文化遺産である富士山の価値を周知していきたい。

問４

構成資産のＰＲが今後も重要である

世界遺産に対して、見学をすると回答した人は 35 人。興味はあり、見学をしたいという意識は高いことがわかったが、人穴富士講遺跡や山宮浅間神社など、行ったことがないと回答した人が多かった構成資産については、引き続きＰＲを心がけていきたい。

問５

人穴富士講遺跡に行ったことがない人が多い

地理的な要因からやむを得ない結果であると推察される。

人穴富士講遺跡は信仰の対象としての富士山を理解する上でたいへん重要な構成資産である。

このことから、特に市民の皆さんには、実際に足を運んでいただき現場に触れガイドの説明を聞いてもらいたい。

今年度は、昨年度まで実施していた構成資産シールラリーをデジタルスタンプラリーに変更して参加しやすくしたり内容を充実させたりした。また、コロナを機に実施方法を見直した市民対象の構成資産めぐりも実施しているため、広く周知して参加につなげていきたい。

問６

３割の人が富士山登頂を経験している

今夏の富士登山はコロナ明けということもあり、登山者数が昨年と比較して大幅に増加している。

山小屋の宿泊予約もしにくい状況にあり、危険性が指摘されている弾丸登山をする人も増加するのではないかと危惧されている。

富士山の文化的な価値を理解するためには、登山だけがその方法ではなく、麓に点在する構成資産を訪問するとか、周辺観光地をめぐるなど違った楽しみ方あります。登山の他の富士山の楽しみ方も合わせて周知したいと思います。